

2020年度シラバス作成要領

貞静学園短期大学

※太字記載箇所については特に留意ください。

1. 担当科目と卒業並びに免許・資格取得との関連についての記載

授業科目名の欄に卒業必修科目、教員免許状取得または保育士資格取得のための必修科目、選択必修科目、選択科目等学生に卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連を周知するため科目名の後に「卒・幼・保」の別を記載すること。

また、当該授業科目の教育課程内の位置づけを表すナンバリングを記載すること。

(※「卒・幼・保」の別及びナンバリングについては、シラバス内容確認担当にて記載するため未記入で提出いただくことができます。)

2. 学習成果の記載

学生が授業を履修することにより獲得できる学習成果について、該当する項目を選択し記載すること。複数の項目に関連する場合は全て選択すること。

専門的学習成果（保育者としての学習成果）

1. 子どもや特別な支援を要する人の発達特性や個性について学び、一人一人の最善の幸福を考え、保育・教育および家庭支援を実践するための様々な知識・技術・技能を習得する。
2. 子どもの「生きる力」を育むために、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域についての技術や技能を習得する。
3. 保育者として子どもの人権を尊重し、倫理観を持って他者と協調すると共に、子どもの心身の健康と安全に努めながら保育・教育に取り組むことができる。
4. 獲得した知識・技能・態度を基礎として、継続的に向上心を持って学習することができる。
5. 他国の人や文化を尊重しグローバルな視点で、子ども、職場、社会を捉え、保育・教育および家庭支援について知識と理解を深めていく姿勢をつくる。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）

6. 文化、社会や自然に対する知識を豊かにし、多様な価値観や意見を理解し、自ら学んでいく。
7. 読む、書く、聞く、話す能力をはじめ、情報を収集・分析する能力、数や量を理解する能力を高め、他者と協働して新しい視点や発想、柔軟な方法で問題を解決することができる。
8. 社会規範や職場のルールを理解し守り、様々な人々と協調して仕事や課題に積極的に取り組み、実現へ向けて計画し、やり遂げる強い意志を獲得する。

3. 授業の到達目標とテーマの記載

担当科目について学生に獲得させる「授業の到達目標」と「テーマ」について記載すること。

4. 授業内容の記載

授業の到達目標を達成するために行う授業の内容を記載すること。

5. 準備学習の記載

平成26年度シラバスより喚起してきた準備学習の記載について、授業の到達目標を達成するという視点から、学生に明確に周知するよう、授業計画の中に予習・復習等の**〈準備学習〉**について具体的な内容および必要な時間の目安を**必ず**記載すること。**(別添参照)**

6. 授業計画の記載

「授業計画」欄について、各回の授業内容を具体的かつ簡潔に記載すること。これは学生が事前にシラバスを読むことで授業内容を知った上で授業に参加するためのものである。複数回に渡って同様のテーマを取り扱う場合であっても、数字のみで区別するのではなく、授業回で扱うテーマの

キーワードを記載し、**各回の違いを明確にすること。**

15回の授業計画記載のあとに「定時試験」と記載する。定時試験を実施しない場合は、その旨記載すること。

15回の授業において実施された小テストやレポート等の課題およびフィードバックの実施について、その方法等を必ず記載すること。

学生の意欲的な学びを促進する取組として、該当する授業回に積極的に記載すること。

(別添参照)

7. 成績の評価方法の記載

- ① 学生に対して単位を付与する際に、どのような観点で成績を付け、単位を付与するのかについて簡潔に記載すること。
 - ② 出席状況を評価に反映してはいけないことになっていることに注意すること。
 - ③ 成績評価に用いる要素(例：授業態度、定時試験成績、提出物・・・等)の**評価割合を% (百分率)で表示すること。**
 - ⑤ 用語統一・・・「定時試験」と記載すること。
- ※成績評価は新成績評価基準に基づき行うこと。

8. 「テキスト」、「参考書・参考資料」の記載

特に使用しない場合は「特になし」と記載し、空欄にしないこと。

ただし、準備学習の記載を行っている以上、学生が事前に何を見て準備したらよいのかということに直結するため、**どちらか必ず記載**すること。

さらに**指導法担当教員は「テキスト」、「参考書・参考資料」のどちらかに「幼稚園教育要領」、または「保育所保育指針」を必ず記載**すること。

授業計画欄に関する記載内容について

※以下は必ずご記入くださいますよう、お願いいたします。

準備学習について

「テキストの予習」などだけではなく具体的な内容および必要な時間を明示してください。

記載例

- ・教科書の p12～p23 を読んでおくこと (60 分)
- ・次回の授業テーマに関する自らの経験を振り返る (60 分)
- ・〇〇に関して練習をしておくこと (60 分)

※短期大学設置基準第7条では、講義および演習については1単位における必要な学習時間が45時間とされている。15回分の授業で30時間(「体育講義」を除く)、残りの15時間は授業時間外の学修が必要であると定められている。以下の計算表から担当する科目の必要な準備学習時間を計算してください。

【短期大学設置基準上、必要な時間数計算表】

1単位につき必要な学習時間：45時間

単位数	授業形態	学習時間	－ (授業時間 ×	授業回数 =	小計) =	必要な準備学習 (授業時間外)
1 単位科目	講義	45 時間	50 分(1 時間)	半期 15 回	15 時間	30 時間
	演習	45 時間	90 分(2 時間)	半期 15 回	30 時間	15 時間
2 単位科目	講義	90 時間	90 分(2 時間)	半期 15 回	30 時間	60 時間
	演習	90 時間	90 分(2 時間)	※通年 30 回	60 時間	30 時間

課題に対するフィードバックの方法について

授業における課題は、学生に対するフィードバックを必ず実施してください。

記載例

- ・フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行います。
- ・フィードバックとしてレポートにコメントを返します。

(抜粋) 令和元年度 私立大学等経常費補助金 教育の質に係る客観的指標より

⑩ 準備学修に必要な時間等のシラバスへの明記		
設問		
シラバスの作成要領等により、以下の内容をシラバスに明記することを全教員に求め、その内容がシラバスに明記されていますか。		
ア	準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間	
イ	課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
ウ	授業における学修の到達目標及び成績評価の方法・基準	
エ	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
オ	当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号(ナンバリングを含む)	
1	アからオ全てシラバスに明記されている。	4 点
2	1.には該当しないが、アからオ全てシラバスへの明記を全教員に求めている。	3 点
3	2.には該当しないが、アからオのうち3つ以上シラバスへの明記を全教員に求めている。	1 点
4	上記のいずれにも該当しない。	0 点

アクティブ・ラーニングの取り入れの状況

学生の意欲的な学びを促進する取組として下記の項目について、授業内で一場面でも該当する場合には積極的に記載してください。

- ・グループ学習、問題解決学習、体験学習、調査学習
- ・ディスカッション、ディベート、学生によるプレゼンテーション
- ・理解度確認（確認テスト、ミニレポート等）
- ・レスポンスカードやコメントシート（授業についてのふり返り、思ったこと、疑問等を記述したもの）の使用

記載例

- ・上記の項目に該当する単語を使用する。
- ・グループワークとグループ発表を行う。
- ・確認テストを時間内に行う。

（抜粋）令和元年度 私立大学等経常費補助金 改革総合支援事業 タイプ1より

タイプ1-④ アクティブ・ラーニング		
設問		
以下のア～カのいずれかの要素を含むアクティブ・ラーニング型の科目を開講していますか。		
ア PBL（課題解決型学習）		
イ 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
ウ ディスカッション、ディベート		
エ グループワーク		
オ プレゼンテーション		
カ 実習、フィールドワーク		
1	当該年度開講科目のうち50%以上	3点
2	当該年度開講科目のうち30%以上	2点
3	当該年度開講科目のうち10%以上	1点
4	上記のいずれにも該当しない。	0点